

防災キャンプ

1 事業のねらい

自然災害を深く知るとともに、日頃からの備えや災害発生時の対応を体験的に学び、身に付け、行動に結びつける意欲を高める。

2 事業の概要

- 期日 R4.9.24(土)～25(日) 1泊2日
- 対象 小学生5年生～中学生3年生
- 人数 38名 ボランティア4名
- 場所 ネイバル森、駒ヶ岳

3 プログラム

	13:00	13:15	14:30	16:00	18:00	20:00	22:00
9/24 (土)	受付	開 会 式	活動1【ネイバル森】 「災害について知ろう」	活動2【ネイバル森】 「避難時に何を持っていく？」	活動3【ネイバル森】 「避難所プログラミング」 (避難所設置、段ボールベット設置等)	活動4【ネイバル森】 「防災クッキング」	入浴 就寝 (体育館・ 研修室)
	7:30	9:00	12:00	13:00	14:00		
9/25 (日)	起 床	朝 食	活動5【ネイバル森・駒ヶ岳】 「活火山の駒ヶ岳について知ろう」 (火山災害の学習、駒ヶ岳登山)	昼 食	ま と め	閉 会 式	解 散

4 ねらいを達成するための活動の工夫

- 興味関心を高める工夫
 - ・避難時に持ち出す物を決める学習ではゲーム形式で進めたり、講師の説明時には実験や映像を組み込んだりした。
 - ・非常用トイレや段ボールベットを組み立てて、実物を確認したり、火山の現地調査を行ったりした。
- 主体的に行動できる人材の育成のための工夫
 - ・防災危機管理官を招へいし、災害に対する深い学びを得て、防災・減災への意識を高めた。その上で時間内に避難時に持ち出す物を整理する活動や体育館に実際に寝床を作る活動など実践的な内容を取り入れ、学びと体験的な活動を掛け合わせた内容にした。



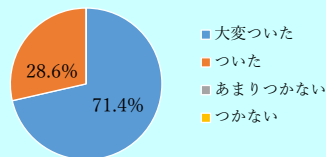
参加者が話し合い設置した避難所



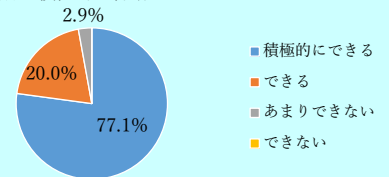
保存が効く食材で作れる料理

5 事業の評価

防災・減災の知識がついた



避難所で積極的に行動できそうか



■参加者アンケートから

- ・防災・減災の知識が「大変ついた・ついた」と回答した参加者のうち、避難所で他の人のために「積極的に行動できる・できる」と回答した割合が92.6%と高い。

■参加者の声

- ・災害発生時は自分で判断し行動することが重要だと感じた。

6 ねらいを踏まえた成果と課題

- 参加者アンケートのクロス集計から、防災・減災の知識がついた参加者ほど、避難所では積極的に行動できると回答した割合が高いことから、知識を得た上で体験的に学ぶことにより、防災に対する意識や災害時の行動に結びつける意欲が高まったと考える。
- 事業のみでは、参加者が主体的に行動できるかは見取れないため、参加者の変容を分析する事後アンケートを実施し、分析を加えプログラム開発につなげる。



企画のポイント

災害や防災についての学びを深め、体験的に学べるよう、講師を招へいし、実験や現地調査を実施。